



平成30年度 自己改革、営農・経済改革プラン 進捗状況報告書

～さがみ農業の担い手の農業所得向上をめざして～

JAさがみ 自己改革実践スローガン

『より出向き より対話 より実践』

さがみの実践する自己改革には、組合員や地域の皆さんから『JAさがみがあってよかった、必要だ！』という声が必要です

知って欲しい・・・JAさがみが目指す

さがみ農業を核とした、人と人とのつながり“協同”の循環

I. 地域密着の事業展開により 総合事業で豊かな暮らしを応援



JAさがみは「総合事業」を行っており、農業生産を支える営農事業、農畜産物を販売する販売事業、貯金やローンなどの信用事業、生命と財産を守る共済事業、そして不動産・葬祭の取扱いや女性組織「さわやか倶楽部」の支援を中心とした生活事業です。これらは組合員や、地域にお住まいの皆さまの、豊かな暮らしを応援するための事業です。

IV. 食べて地域農業を応援！



皆さまが、地域で作られた農畜産物を食べていただけることを、一番喜んでいるのは地域の農家です。次はもっとおいしくて安全・安心な農畜産物を作ろうという気持ちになります。さがみ産の農畜産物を食べていただくことは、地域の農業を応援することとなり、結果、皆さまの豊かな食生活や健康につながっていくという素晴らしい循環を生み出します。

さがみ
農業

II. さがみ農業を発展させる ための投資



組合員の皆さまが事業を利用することで得た利益の一部は、直売所や農業施設の運営等、地域農業のために使わせていただいております。よって、皆さまに農協の事業をご利用いただくことは、地域農業の発展につながり、そして、食と農を通して、皆さまの生活を豊かにすることに還元されています。

III. 地産地消による新鮮で安全・安心 な地元農畜産物の提供



共撰・共販による農産物の市場出荷や、管内8か所にあるさがみ直営の直売所を基軸に、消費者と生産者をつなぐ食の架け橋として、地域の皆さまの食を豊かにしています。つまり、地域農業が発展することは、皆さまの食卓に、採れたて新鮮、安全・安心な農畜産物をお届けすることにつながります。

さがみ農業と共に支え合う地域の未来

JAさがみ

項 目	頁
1. 自己改革への取組みについて	- 2 -
2. JAさがみ 営農・経済改革プラン進捗状況報告について	-13-
視点1 販売力の強化に向けた取組み	-13-
視点2 営農指導の強化に向けた取組み	-16-
視点3 生産購買事業の再構築・強化に向けた取組み	-18-
視点4 新規就農者・農業後継者へのサポート強化に向けた取組み	-21-
視点5 都市農業経営・営農への理解醸成に向けた取組み	-23-
3. 各地区・各営農経済センターの主な取組実践状況	-24-
4. 平成30年度「1支店1活動」報告 ～組合員・地域住民との交流～	-31-
5. 営農・経済改革プラン 年次別実践計画進捗状況	-35-
6. 更なる 自己改革、営農・経済改革への取組みについて	-39-

平成30年度 自己改革、営農・経済改革への取組みについて

平成30年度は、第8次3か年事業計画ならびにJAさがみ営農・経済改革プランの最終年度となり、この3年間、さがみ農業の担い手の農業所得の向上と地域活性化のため、自己改革に取り組んでまいりました。

JAさがみの自己改革、営農経済改革への取組状況としてその成果をまとめましたので、是非ご確認下さい。

JAさがみは多様な事業を総合的に展開することで、地域農業の振興や地域づくりに努めています。とりわけ収支が厳しい農業関連事業は、信用事業や共済事業を含めた総合事業だからこそ、営農指導員の確保や大規模な農業施設の円滑な運営・維持が実現できています。

JAさがみでは、これからも農業者の所得増大、地域の活性化ができるよう全役職員・社員一丸となって、積極的な自己改革に挑戦し続けてまいりますので、ご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

つながる 広がる さがみの 笑顔



自己改革 営農・経済改革への取組みに対する周知・評価把握

《総合企画室》 ※取組実践状況の冊子ならびにDVDを作成し、戸別訪問時や各種研修会等において活用

実施方法	実施日・期 間	対象者
支店長・センター長のペアによる 担い手農業者への戸別訪問	H30年4～5月 H30年12～H31.1月	認定農業者等担い手農業者 〔450戸〕
各地区・各支店 運営委員会	H30年4～5月	地区・支店運営委員等
組合員事業推進大会	H30年4月17・18日	運営委員等
地区別事業説明会〔10会場〕	H30年5月9～11日	組合員
第23回 通常総代会	H30年5月25日	総 代
全職員・社員による正組合員全戸訪問	H30年5～7月	正組合員〔7,724戸〕
役職員による組合員戸別訪問	H30年8～11月	担い手農業者等組合員〔461戸〕 さわやか倶楽部・青壮年部地区役員
総代研修会	H30年10月26日	総 代
第22回 都市農業振興大会	H31年1月30日	組合員
JAさがみグループ役職員事業推進大会	H31年2月23日	全役職員・社員



第23回 通常総代会



出向く対話活動



地区別事業説明会



組合員事業推進大会



平成30年度において実施しました様々な出向く対話活動により、組合員の皆さんから多くのご意見・ご要望をいただきましたので、主なご意見等に対する回答と今後の取組みについてまとめさせていただきましたので、ご報告いたします。



★現在取組み中です！

- 出荷形態、販売単価の問題、市場の売り先等にもっと力を入れてほしい。
 - 市場巡回を通じて、有利販売へ向け規格の簡素化や値決め等について交渉を行っています。
- 作物の品質を気にせず、作ったら売るというかたちを取っているために、地方の農協の品質と比べた時に太刀打ちができない。農協の営農指導が不足しているのではないかな。
 - 実需者の求める、売れる農産物作り(マーケットイン)への指導対応を行える営農指導員の育成に努めています。
- 担い手が年々減ってきているのでJAからも何か動きがあると良いと思う。
 - 農業の後継者不足については、農協としても優先的課題として捉えており、担い手育成に向けた取組みを進めております。
- わいわい市について、①緑化を抑制する蛍光灯に変えたらよい。②品物の品質が下がるので、共販・個撰等とのルール作りが必要。③バックヤードや資材を独占使用している出荷者がいる。出荷者との話し合う場が必要と思う。
 - ①蛍光灯については、全農施設部と検討を行っています。②引き続き品質強化に努めます。③独占使用のないよう指導及び周知の徹底を図ります。
- 農具、肥料等、他社と競わせて値段を安くできないか。
 - 品質確保の観点から系統業者を中心とした取扱いを行っていますが、信用調査等を行った上で問題が無いと判断し、実際取引を行っている系統外業者もございます。今後も既契約のあるメーカーに対しては市場調査や大量購入等による価格交渉を行っていくとともに、新たな業者利用による低廉資材の取扱い実現に向け検討してまいります。

- 肥料が安くなったと感じるが、まだ高い。
 - 更なる価格低減の実現に向け、引き続き関係各所と連携してまいります。
- 農業機械の共同購入。台数をまとめることで安価購入できないか。
 - 今年度、全農によるトラクター(60馬力)の共同購入に取り組んでいます。今後も引き続き検討してまいります。
- 冬の時期、重油の使用が多くなるため補助金制度等を考えていただきたい。現在は薪ストーブを設置し対応を始めている。
 - 需要期(10/1～3/31)には、対策費として1L当り5円の値引を実施しております。
- 胡蝶蘭を栽培するにあたり、電気代も月45万円かかる。そのほか重油代もかさむ。空調設備についてヒートポンプだと国の補助金がでると聞いている。今後、エアコン、ヒートポンプなどの電気代等の補助金、重油の補助金などJAが働きかけ助成できるよう希望したい。
 - 重油につきましては、現在「営農用燃料油取扱対策」として2円/Lの値引きおよび「営農用A重油対策」として3円/L、合計5円/Lの値引き対応を行っています。
ヒートポンプの設備費は国(経産省)の省エネ設備に該当し、補助対象になります。重油の供給価格は行政・全農から補助があり最大5円/L値引きしています。電気代の助成に対する要望は難しく、現状、国(環境省)の二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(CO2削減ポテンシャル診断推進事業・低炭素機器導入事業)による新・既設備の設備費・工事費が考えられます。
- 有害鳥獣対策をお願いしたい。また、何か依頼するにも営農経済センターの職員が少ないのではと感じる。
 - 有害鳥獣対策については鳥獣保護法の観点を含め適切な対応が必要になります。JAバンク応援プログラムによる活用と併せて関係機関と連携してまいりますので、ご相談願います。

●災害時に災害支援金の融資を実行していますが、低利子ではなく無利子で対応いただきたい。

➤災害発生後、被災への速やかな対応を目的に被害の状況の詳細の収集・把握と並行して、災害後4日後に融資要領を制定しました。その後6日遅れてではありますが、無利息による災害対応融資の取扱いが開始されています。

●年配の支店職員はよく知っているが、若年層の職員がわからず、支店へ行っても会話が続かない。お互いのことを理解できるよう青壮年部などの組織を通じて懇親会等を開催いただきたい。

➤現在、組織活動への職員の参加も徐々に進んでいます。今後、組織の意向を取り入れながら職員の参加について考えていきます。

★今後検討してまいります！

●営農指導について、出荷量や原価等、あいまいな部分を明確にし、数値の管理を徹底すれば他社との差別化などを図れるのではないかと。(スマホを活用した管理等)

➤今後、農作業の見える化のデータ管理は必要であり、農業のIT化への対応については順次検討してまいります。

●今後の後継者問題について、兼業農家は専業農業者にお願いするという改善策もありますが、その専業農業者が後継者問題に直面している状態である。農協に年間を通じた農業の代行を依頼し、さらに農家に利益が残るような仕組みを考えてはもらえないか。

➤多様な「担い手」を活かし、魅力ある地域農業が継続できるような仕組みが必要です。地域の実情に合った対応を図るため、行政等関係機関とも連携し、委員会や部会などの機会をとらえ、地元の農業者とともに課題解決に向け取り組んでまいります。

●直売所へのお荷者も高齢化がすすんでいるので、庭先集荷など地域にあった運営方法を検討いただきたい。

➤庭先集荷については、生産者の高齢化支援等も含め検討します。

●農業に関心の高い若者達は多く、食育支援や、インターンシップへの助成をJAが行うことにより、後継者対策に歯止めができるのではないかと

➤食農教育活動やインターンシップなどについて、まずは情報面から支援ができないか考えていきます。

●養豚業の生産コストの大部分を占める飼料代について、全農の価格が商社に比べ高い。注文の方法についても日々がきびしく、使い勝手が悪い。改善してほしい。

➤全農畜産事業センターと連携を深め、注文方法を再確認し、価格の低減に努めてまいります。

●餌の品質向上と低価格について、全農はとうもろこし等原料の安定確保のため相当量の輸入を手掛けているのだから低価格の取組みがもう少しできるのでは。

➤東部畜産事務所を通じ全農に働きかけてまいります。

●支部生産班の在り方について協議していく必要がある。高齢化や会社勤めにより農業を営んでいない方は役員も辞退されるし、抜けたいと申し出られる方もいる。回覧についても色々な注文方法を選択できるようにすれば良いのではないかと。

➤支部生産班の在り方につきましては、全体的な課題として認識しており、協同組合の利点が活かされる組織となるよう、組合員の皆さまとともに検討してまいりたいと考えております。回覧につきましても、配布方法の見直しを進めてまいります。

●高齢化社会となっており、さがみ農協として福祉や介護分野の事業を展開し、様々な観点から農協が頼りになる存在でいてほしい。

➤現在、助け合い組織「セブンパワー」の協力を得て、ミニデイサービスなどの高齢者福祉活動に取り組んでいます。介護事業は、ケアセンターを廃止した経過もあり、組合員のニーズを確認し、何ができるか考えていきます。

●産地形成促進施設にクーラー設置ができないならば、屋根に断熱材を入れれば、温度をさげる効果があると思うので、早急に検討願いたい。

➤建物の改修や設備の設置等の効果的な方法を検討いたします。

●出荷の際、産地形成施設にトイレがなく困っている。

➤建物内部、敷地内にトイレ設置ができるか行政と協議しながら検討いたします。

●営農経済センターに貯蔵庫がなくフォークリフトでの出入りができない。(暑さで荷が傷む)また、農産物を本店に集めれば、たくさん集まるのに、なぜやらないのか。

➤野菜の鮮度保持の面から、関係部署と相談し検討いたします。農産物の販売については、地区の特色を活かした販売や地域ブランドを重視した販売を引続き強化いたします。また、地区を越えた販売も進めてまいります。

★ご理解・ご協力をお願いします！

●直売所へのお荷方法について、夕方引取りを行うことでプラスになる部分はわかるが、作業時間の圧縮などマイナスの部分も否めないで時代の変化に対応した方法を検討してほしい。

➤品質が厳しく問われる時代です。新鮮・安全・安心にかかる品質管理の徹底は非常に重要です。また、引取り時に生産者同士の情報交換や販売戦略を考える時間等の考え方で引取りをお願いしております。今後、時代の変化に合った体制・規約等の見直しを検討します。

●直売所に鶏卵を出荷しているが、賞味期間が2週間あるにもかかわらず、商品の引上げを毎日しなければならないことに改善を要望する。

➤常温管理の農畜産物については、基本、毎日引上げをお願いします。

●グリーンセンター渋谷は、駅前の直売所なので営業時間延長等店舗の環境に合わせた営業時間にしてはどうでしょうか。また、品質と値段の統一、引取りを考えると時間で10%値引等の検討をしてほしい。

➤営業時間については、マーケット調査等を行った上で検討する必要があります。価格について運営指針では、それぞれの品質に応じた妥当な範囲で再生産価格を下回らない額を原則としています。また、時間帯割引については、スーパーとの差別化を図ることや農産物は委託品のため割引はできません。

●小麦販路を提供してほしい。また、検査手数料を下げしてほしい。

➤小麦の販路については、県下統一で有利販売先の検討を行っています。検査手数料については、1袋(30kg)あたり15円と最低検査手数料の設定となっていますのでご理解願います。

●農業資材の価格が他の業者と比べ高いので、現状、農家はホームセンターを含め他から購入している。JAは全国組織なので全国規模で価格交渉をすれば価格が下がり利用者が増え、農業所得の向上とJA経済事業の収益向上へ繋がると思う。

➤現在、全農と連携し、ジェネリック農薬の取扱いや取扱品目の集約による資材価格の低減に努めております。なお、価格以外の品質保証の優位性等についてご理解をいただきたいと思います。

●連作障害を防ぐため太陽熱消毒の委託をできないか。

➤太陽熱消毒については、処理期間が長期に及び、天候の状況や病害虫の種類によっては効果が得られない場合があり、現在受託している作業は、施設栽培の熱水・土壌消毒機による作業のみとなっております。

●花き部会に一人で入っている。営農の情報交換は、県外、全国の仲間と取り合っている。神奈川県に胡蝶蘭栽培は、20件しかない。部会に入らないと品評会に出展できない。JAさがみの独自の品評会をつくって情報交換、コミュニケーションがしたい。

➤過去、さがみ管内での品評会を行った経過がありますが、品評会の開催時期が重なり、出品者がそろわずに中止した経過がありますので、開催は難しいと考えます。情報交換、コミュニケーションについては、花卉温室部会連絡協議会へご加入ください。

●営農指導のできる職員の人事を考えて欲しい。

➢ 人事異動につきましては事業所のバランスや職場環境、職員の適材適所や将来的な成長(キャリアプラン)を考えた中で配置しておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

●営農の職員の人事異動が早すぎる。

➢ 営農指導担当の職員については、5年程度の長期滞留が内規で認められております。その間に事業所内での後任の育成について、所属長に徹底してまいります。また、人事異動につきましては事業所のバランスや職場環境、職員の適材適所や将来的な成長(キャリアプラン)を考えた中で配置しておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

●畜産事業センター勤務の養豚事業担当者は専門性を活かしていただきたいので異動など変更のないようお願いしたい。

➢ 畜産事業についてはその専門性を鑑み人員配置を行っておりますが、人事異動につきましては事業所のバランスや職場環境、職員の適材適所や将来的な成長(キャリアプラン)を考えた中で行っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

●合併後担当者の異動が早いのではないかな。若い人を育てるようなJAの環境づくりをして窓口に行きやすい環境にしてほしい。

➢ 現在、信用事業等担当の職員については4年、営農指導担当の職員については5年程度の長期滞留が内規で認められております。その間に事業所内での後任の育成について、所属長に徹底してまいります。また、人事異動につきましては事業所のバランスや職場環境、職員の適材適所や将来的な成長(キャリアプラン)を考えた中で配置しておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

対話活動の実践

管内8行政の市・町長との対話活動

8月7日から31日にかけて、7市1町の行政を訪問し、「都市農業・地域振興対策会議」として、市・町長をはじめ行政関係者に対し、営農・経済改革プランを中心に自己改革の取組実践状況について報告し、併せて地域農業に対する意見交換を実施しました。

なお、今後も継続して実施し、行政との関係強化に努めてまいります。

＜主な要請内容＞

- ・ 改正生産緑地制度における要件緩和
- ・ 遊水機能を有している水田に対する水田補償金支出要請
- ・ 組合員の健康管理活動促進のため、JA健康管理センターで受診した人間ドックへの助成要望
- ・ 管内行政が連携した「ジャンボタニシ」の防除に対する支援要請



組合長と職員・社員との対話活動

組合長と職員・社員5名前後との対話により、風通しの良い事業運営と農協らしい職員・社員としての組合員対応をはかっていくため、『今、なぜ全戸訪問なのか、自己改革は何を意味するのか』などについて、組合長の今までの経験を取り入れて、腹落ちできる対話活動を実践しております。

＜実施した対話状況＞

- ・ 女性支店長、新任支店長、新任渉外担当者など 計 10回開催 延べ52名

役職員、社員への自己改革の取組周知

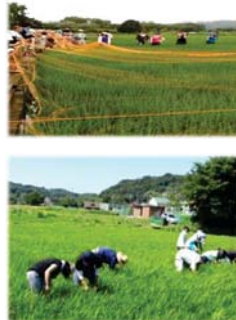
職員や社員が自己改革の取組みを組合員に説明できるよう、自己改革理解促進対策資料として、「JA自己改革の実践に向けて」・「10分で分かる！私たちJAが目指すもの」（研修用DVD）を配付し、各事業所における会議や内部勉強会等を通じて理解醸成に努めました。



職員・社員の農業に対する理解促進

＜米づくりリスクール＞

昨年に引き続き、藤沢市農業経営士に指導いただき、役職員の自主参加により農作業を通じて農業への理解と知識を深め、管内農家組合員への対応力、資質向上を目的として米づくり（品種：はるみ、約20a）に挑戦しました。（参加者66名）※収穫量：736kg



農業理解促進・地産地消促進意識の向上

【食の安全・安心を考える学習会 日帰りバスツアー】

管内の准組合員等を対象に、「食の安全・安心を考える学習会」として、横浜港税関にて輸入農産物保管倉庫の現状視察と、税関職員の説明により輸入農産物の現状を知ってもらい、中華街にてJAさがみ管内の農畜産物を食材とした中華料理をお楽しみ頂き、お帰りにはJAさがみの直売所にて、新鮮農畜産物のお買い物を楽しんで頂く、「食の安全・安心を考える学習会 日帰りバスツアー」を28年度より継続して実施しています。



●参加された方々の感想

食の安全には興味があったが、今回輸入食品保管倉庫を見学して驚いた。とても勉強になった。

食べるものに対し、今までそんなに感じなかったが、輸入食品保管倉庫を見学して感心を持つようになった。

今回の学習会は、とても勉強になりました。そして驚きを感じ、地場の野菜の大切さを知りました。

参加させていただき、日本の農業の大切さを知りました。これから日本の農業が盛んになるよう頑張ってください。

このような取組みは地方銀行などより身近に感じ、親しみやすくとても良いと思う。

JAさがみ管内でとれた農畜産物を食材に使った料理がとても美味しかった。やっぱり新鮮だからだと思った。

これからの子どもたちの未来が心配になりました。良い方向に向かうよう頑張ってください。応援します。

添加物や遺伝子組換えなど、知らないうちに輸入される食品を知り、自分達の食生活に気をつけていきたい。

年度	28年度	29年度	30年度	計
参加者数	410 名	1,034 名	882 名	2,326 名



准組合員とJA・農業との関係強化

【准組合員のつどい『JA利用者ふれあい交流会』】

農業体験や「食の安全・安心を考える学習会 日帰りバスツアー」に参加された准組合員を対象に、更なるつながり強化、接点づくりをはかるため、JAの組織概況やさがみの事業・組織活動等を説明し、意見交換の場として、常勤役員、地区役員にもご出席いただき、『JA利用者ふれあい交流会』を開催いたしました。

准組合員の皆さんには地域農業の発展を支える農業振興の応援団となっていただくよう、さがみの各地区の特色を活かした1支店1活動等諸活動を展開し、組合員との結び付きを強化し、食と農を基軸として、地域に根ざした協同組合を目指してまいります。



取組地区・支店	参加者数
六会支店	9名
御所見支店	17名
綾瀬地区	8名
大和地区	25名
茅ヶ崎地区	20名
座間地区	10名
大庭支店	10名
長後支店	9名
海老名地区	23名
辻堂・羽鳥支店	18名
村岡・鶴沼・藤沢・善行・藤が岡	15名
鎌倉地区	19名
遠藤支店	10名
計	193名

地域に根ざした協同活動の展開

『湘南辻堂とれたて市』

7月21日、県内では始めて農協・生協・漁協と連携して、販売イベント『湘南辻堂とれたて市』をユーコープ辻堂駅前店にて開催しました。

地元で取れた農産物、海産物などを、生産農家・さわやか倶楽部や支店・センター職員で販売し、地元産地産地消のPR活動を行いました。



『ちがさき茅産茅消 とれたてトラック市』

12月24日、農協・生協共同企画第2弾「ちがさき茅産茅消とれたてトラック市」をユーコープ萩園店にて開催しました。

地区役員・職員も多数参加し、生産者が軽トラックに地元農産物や鉢花を載せて販売、さわやか倶楽部にご協力いただき、ちがさき産野菜がたくさん入った「とん汁」を振舞いました。



協同組合間のつながり強化になると同時に、新たな地域づくりを見つけるチャンスでもあるので、お互いに持っている機能を発揮して、より良い地域づくりに貢献していきます。

総務部 【台風24号による農家支援】

平成30年10月1日、台風第24号の接近・通過に伴い、さがみ管内においても暴風、大雨の影響により、農業用施設等に甚大な被害が発生しました。

そのため、各営農経済センターと組織経済部が連携し、管内農家の被害状況を把握するとともに、総務部にてJAさがみグループの職員・社員に呼びかけ、倒壊したパイプハウスの撤去作業や温室内の割れたガラスの片付け作業、被害を受けたブルーベリーの収穫作業等の支援を行いました。

なお、10月2日から5日までの4日間で延べ123名の職員が支援活動を実施しました。



～主な課題～ パイプハウス等の撤去作業にあたり、発電機や電動丸ノコギリ等の工具が必要となったことから、機材等の備えが必要

《総務管理本部》 総務部

【CS改善活動】

CS改善ミーティングにて、金融店舗や営農経済センター職員が個々に参加する組織活動を決め、事業間の垣根を越えて青壮年部やさわやか倶楽部などの組織活動に参加しました。（参加人数：延べ457名）

また、「CS改善活動の軌跡」と題し、組織活動に参加した様子や事業所のお祭り風景、利用者からの声をまとめた動画をJAさがみグループ役職員事業推進大会で放映し、職員の組織活動への参加意識醸成を図りました。



鎌倉地区納涼大会風景



青壮年部 ソフトボール練習風景



さわやか倶楽部 演芸大会(羽鳥支店)

～主な課題～ 職員の組織活動への更なる参加意識の醸成と、参加者同士のつながり強化

【農作業体験研修】

地域農業の振興のため、平成28年度より職員が農家組合員宅を訪問し、農作業を通じ農業への理解と知識を深めると同時に、組合員、地域住民との絆をより一層深めることを目的として、本年度も実施いたしました。（体験研修実習者：41人）



～主な課題～ 農協の職員に対し農業についてもっと理解をして欲しいとの意見があるため、職員のより一層農業への理解を深める方策の検討

【經濟事業體驗研修】

JA事業において直接的に農業経営に資する経済事業を体験することにより、農協事業を一層理解し、農家組合員への対応力、知識研鑽、資質向上を目的として、平成30年4月1日に副主任役に昇格した職員を対象に実施いたしました。

なお、本年度は昨年度の1回から2回の実施に増やし、農協事業のさらなる理解深化に取り組みました。（体験研修実習者 66人）



○研修先：原則2回実施

1回目：トマト撰果場、水稻育苗センター、米麦乾燥センター

2回目：わいわい市等直売所

～主な課題～ 信用店舗の職員は経済事業に関わることが少なく、当研修で初めて経済事業の仕事について触れたという職員もいるため、総合事業を行なっている組織として業種間のさらなる理解・交流が出来る仕組みの検討

《総務管理本部》

管理部

【組合員カードの発行】

**直売所の利用拡大による農業所得向上と正組合員・准組合員と農業・JAとのつながり強化に向けて、組合員カードの発行
 手続を12月10日より開始しました。**

平成31年2月28日現在、14,000人を超える組合員の方々から申込みがあり、同年3月4日よりJAさがみの直売所、営農経済センター、経済店舗でご利用いただいております。

今後とも組合員カードの発行枚数の増加に努めてまいります。

【平成31年3月4日より取扱開始】



～主な課題～ 組合員カードの周知と発行枚数の増加

[illegible]

《金融共済本部》

金融部

貯金利用者に対して、管内農家が生産した新鮮野菜詰合せやお米をキャンペーンの粗品として進呈し、安全・安心で新鮮な地元農産物を幅広くPRしています。

また、JAカードの継続的な普及推進を行い直売所での利用者拡大をはかり農業所得向上に努めました。



貯金商品としては農業所得申告者やその農業専従者の方を限定とした、金利がお得な「JAトク農定期貯金」を用意し、農業者の資産づくりに努めました。

各店舗での相続・遺言に関する個別相談会やセミナーの開催、また、虹のホール茅ヶ崎での相続相談会の開催により、相続・事業承継支援に努めました。



～主な課題～

組合員の資産相談業務を取組んでいくにあたり、渉外担当者等の各種相談に対する提案力の強化、ならびに他部門との連携

《金融共済本部》

共済部

【さつまいもスクール】

全共連による地域貢献活動に関する助成金を活用し、金融部・組織経済部・支店・地区運営委員会事務局（食育グループ）と連携して、准組合員とその家族を対象とした「さつまいもスクール」を平成28年度より継続実施しています。

JA職員と一緒に苗の植付けから収穫等一連の農業体験および地元野菜の撰果施設・卸売市場・JA直売施設を見学し、地域農業への理解醸成に努めるとともに、収穫したさつまいもを使用した料理の試食等もあり、准組合員とJAの結びつき強化に努めています。（本年度参加者数：66名）



～主な課題～

地域農業への理解醸成に向け、今後の対象地区(支店)の選定とともに、植付作物や圃場・見学施設、試食品等の見直し・検討

【アンパンマン交通安全キャラバン】

全共連より地域貢献活動の一環として使用できる資材（アンパンマンイベントブースキット・アンパンマン交通安全キャラバン）を活用し、さがみ管内の各事業所等で開催されるイベント（まつり等）において来場者増加に役立て、組合員、地域の方々とJAとの結びつき強化に努めています。

～主な課題～ 更なる組合員、地域住民とのJAの関係強化



融資運用部

【農業金融サービスの提供】

農業の効率化や規模拡大等、担い手農家への積極的な経営アドバイスと金融面からの支援の充実をはかることが重要であることから、資金相談・経営相談などに関する知識・ノウハウの修得のため、JAバンク農業金融プランナーの人材育成に努めております。

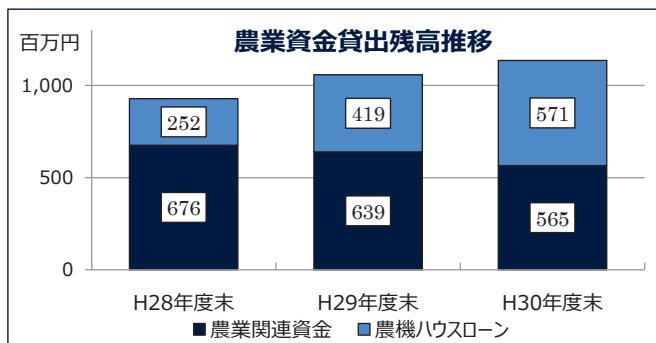
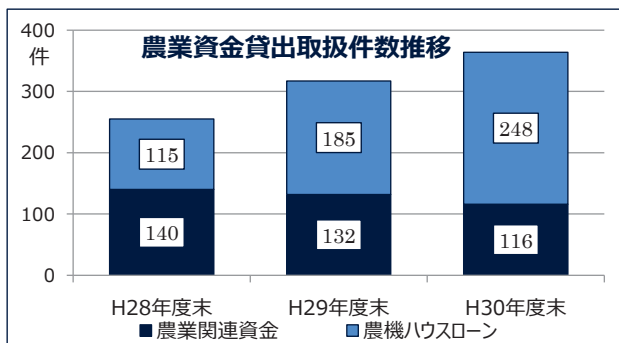
資格保有者（平成31年2月末現在） 信用部門59名、営農・経済担当者18名

～主な課題～ 融資担当者だけではなく渉外担当者も対象に含めた中での資格保有者の増加

【農業融資の対応】

単位：百万円、（ ）は件数

項 目	H28年度末<A>	H29年度末	H30年度末<C>	増減<C>-<A>
農業資金貸出残高	(255) 928	(317) 1,058	(364) 1,136	(109) 208



【営農サポートセンター「応援プログラム」】

昨年度に引続き、営農・経済改革を実践していくため、JAグループ神奈川 営農サポートセンターの支援により、①農業経営管理支援、②新たな販売の企画・展開、③農業金融の充実・強化、④JA人材育成、を取組むべき内容と位置づけ、「応援プログラム」を展開しています。

JAバンク神奈川では、農機取得や有害鳥獣対策等の費用をはじめ、環境モニタリング装置・環境制御装置・統合環境制御システム購入費用の助成、および農業資金借入の際に発生する保証料の助成ならびに利息の一部を軽減する利子補給などを行っています。

なお、一部内容変更もありますが、31年度につきましても、継続して取扱ってまいります。

※詳しくは支店融資担当者・渉外担当者またはセンター営農指導員にご相談下さい。

JAグループ神奈川は8つの助成事業で農家の皆さまを支援します！

1 有害鳥獣対策費用助成事業

有害鳥獣対策に必要となる費用の一部を助成します。

2 農機等取得費用助成事業

農機等の取得費用の一部を助成します。

3 かながわスマート農業応援事業

スマート農業の導入を支援します。

4 かながわ畜産応援事業

畜産の振興を支援します。

5 農業法人化支援事業

農業法人化を支援します。

6 新規就農応援事業

新規就農者を支援します。

7 利子補給事業

農業資金借入の利子を軽減します。

8 保証料助成事業

農業資金借入の保証料を助成します。

※平成31年4月1日からのリーフレットとなります。



視点1 販売力の強化に向けた取組み

- 販売戦略会議を市場出荷中心に行っている地区と量販店出荷を中心に行っている地区の2ブロックに分け、販売進捗管理、データ分析、量販店巡回を行い販売力の強化を行いました。
※会議：各ブロック月1回 計36回 量販店視察：5店舗

～主な課題～

- 販売専任担当者の必要なスキルを向上させる仕組みと業務に専念できる体制づくり

- わいわい市出荷者大会を開催し、農業所得向上を目的とした生産者・職員が一丸となった店舗運営を目指し意思統一をはかりました。

～主な課題～

- 大会を通じた運営の更なる充実強化



- 外部専門機関と共に直売店舗の衛生巡回検査を実施し衛生管理指導を行いました。
※衛生巡回：8店舗72回、加工品出荷者77件

～主な課題～

- 職員・出荷者の衛生に関する知識（法律も含む）の向上
- 衛生巡回に加え、残留農薬検査も実施していく



- 平成28年度より管内の「すべての担い手の農業所得向上」をめざす実践の第一歩として、営農台帳システムによる現場の情報を活用したインゲンプロジェクトを実施し、インゲンの出荷を通じて、量販店との協議・検討を行い、ニーズにあった荷姿の構築、出荷規格の簡素化と広域販売に対する精算方法を確立しました。

～主な課題～

- 広域の出荷組織における圃場巡回等、効率的な営農指導
- 費用対効果を考慮した取組内容への検討
- 消費者ニーズを把握・分析



- 営農台帳システムを活用しインゲンプロジェクトへの新規出荷者の推進を行い合計出荷者は15名となりました。

※出荷者

藤沢地区7名、茅ヶ崎地区1名、寒川地区5名、
大和地区1名、海老名地区1名 計15名



～主な課題～

- 新規出荷者拡大に伴い更に営農台帳システムを活用し戦略に適す組合員への提案活動を実施

- 撰果トマトの統一販売に向けた協議・検討を行い、各地区ごとの出荷量から販売課が市場との交渉をおこない出荷窓口の一元化を行なうとともに、さがみブランドとして出荷規格の統一、出荷資材のデザイン統一を実施しました。

～主な課題～

- 量販店での販売方法を視野に入れた出荷市場と販売戦略の構築
- 新たな撰果場の整備、統一精算に向けた協議・検討



- 生産者の手取り向上のため、JAさがみとJA湘南の中心品目であるトマト・キュウリに着目し、JA間連携により高水準の価格形成が行える販売のため協議・検討を行ってきました。（平成28年10月より平成30年8月まで 計16回開催）
また、量目1kgの統一出荷箱（じゃん箱）を作製し、平成30年6月より藤沢地区・茅ヶ崎地区より市場出荷を行ないました。

～主な課題～

- JA間連携における共同出荷の検討
- キュウリについては秋作で安値取引されるC品・D品を中心に量販店と荷姿・量目・規格について取引を協議



- 加工業者へ市場出荷できないトマトの規格外品の販売を継続して行いました。また、加工用トマト出荷の取組み改善を目的として「しんわルネッサンス」の加工施設体験研修を実施し、職員のスキルアップをはかり品質向上に努めました。

- ～主な課題～ ○規格外品の出荷調整を協議・検討および他加工業者の販路構築

- 農産物の販路拡大のため、かき氷の原料として加工業者へトマト・梨の出荷を行いました。
※取引先：共同冷蔵（株）



～主な課題～

- トマト・梨以外の他品目の提案を実施

- 平成29年において、漬物向けにらっきょうの出荷依頼があり、契約栽培に向け生産者1名に作付け依頼を行いました。
※取引先：漬物業者「丸イ食品」

～主な課題～

- 栽培期間が長期となるため、収益結果を踏まえた作付け拡大に向けた検討

- 第12回JAグループ国産農畜産物商談会へ参加し実需者との商談を行いました。
※商談件数：10社（ファミリーマート・ベルク・つま正・農業総合研究所他）



～主な課題～

- 市場外流通を行う販売システムの開発
- 運送業者のドライバー不足等への対応

- 園芸フェアなど各種イベントの開催や季節に応じたレイアウトの展開により、集客の向上に努めました。



～主な課題～

- 創意工夫の演出による直売所の魅力向上

- マックスバリュEX茅ヶ崎浜須賀店で、地場農産物の販売促進を行いました。

～主な課題～

- 出荷者・店舗・JAが一体となった販売促進活動の実施



- マックスバリュ東海（株）神奈川エリア11店舗の地場産販売フェア「じもの市」へ計画的な出荷を行ない、売場の確保と商品PRの強化を行うとともに、平塚河内店、四之宮店の「じもの日」に合わせトマト・トウモロコシ・インゲンの試食販売を行い「さがみ産青果物」のアピールを行いました。

～主な課題～

- 出荷可能品目数を拡充と魅力ある売場作りの実施



- マックスバリュ東海（株）エリア全店舗商談会へ参加し、さがみ産青果物（トマト・インゲン）をマックスバリュ各店舗従業員と商談を行いました。

～主な課題～

- 新規取扱い店舗の獲得
- 物流・商流等、課題解決に向けた協議・検討



- 平成29年度より日本大学と連携事業を開始し、大学の強みである「食品分析」を活かして直売所全店舗でイベントを開催しました。品種別の食べ方やレシピを提案することで集客の向上と販売促進につなげることができました。※イベント年1回開催



～主な課題～ ○食品分析を行なった農産物の店舗陳列

- 文教大学と連携し、地域住民への食育および地場農畜産物の普及拡大を目的とした毎回異なるテーマで、学生考案レシピの配布や試食を交えたイベントを実施しました。 ※イベント4回開催



～主な課題～

○単年度の活動となりがちなゼミ学生との関係性の維持

- 鎌倉女子大学と連携し、健康増進・野菜の摂取量の増加を促し、野菜の持つ機能性成分の周知・効果的に摂取する方法を紹介しました。

平成30年には、神奈川県下8JAと連携し「かながわじゃんフェスタ」を開催しました。じゃんフェスタでは、各JAによる特産品の販売のほか、ダンス・農業クイズ、大学・生産者による食育ブースを設置し、来店者が体験して農業と食事の大切さを深めていただくよう取り組みました。 ※イベント年2回開催



～主な課題～ ○農業に関する情報発信力の強化

視点2 営農指導の強化に向けた取組み

- 平成29年度より神奈川県と県中央会の連携により研修会を開催、神奈川県農業技術センターにて長期間の研修が行われました。センター研究部での実習を中心に、普及指導部との同行巡回などをカリキュラムに含め、営農指導技術の向上をはかるとともに、県職員とのつながりを深め、研修後の業務に活かしています。



※H29年度より、
野菜コース6ヶ月 研修2名
果樹コース1年 研修1名

～主な課題～ ○県農業技術センターでの受入研修となるため、派遣人数に制限がある

- TACアグリビジネススクール、営農支援セミナー、農薬適正使用研修会、野菜栽培概論講習会、農産物づくり講習会他、営農・販売に係わる研修会へ参加しました。

※受講職員数：延べ144人



～主な課題～ ○営農に関する研修会は多く開催されているが、販売に関する研修会が少ない

- 平成30年度末時点で、営農台帳システムへ2,397戸の農家基本情報データーを登録し、TAC訪問活動、販売力強化に活用しています。

～主な課題～ ○営農台帳登録者全圃場の随時更新が必要

- 平成30年度下期は2,867戸に2回以上のTAC訪問を行い、情報収集・提供に努めました。※H31年2月末現在訪問戸数4,368戸

～主な課題～

- 情報収集、情報伝達その他、営農台帳蓄積データを活用した提案活動が不可欠
- 担い手農家の支援ニーズに応える職員の育成



- 農業機械受委託利用事業を平成29年10月より事業開始いたしました。

事業実績：オペレーター協会・営農課合計

- 受託件数：290件(前年比131%)
- 受託面積：4,089 a (前年比121%)
- 受託金額：5,528,400円(前年比138%)



～主な課題～

- 利用拡大のための周知活動の実施
- 委託要望の時期が集中する中での対応



- 国のガイドラインに準拠した神奈川県GAPチェックシートに基づき、「JAさがみGAP『良い農場』点検項目シート」を新たに策定、神奈川県と連携し、個別相談・改善提案に活用。

各部会会議や講習会で周知を行い、平成31年2月8日にはGAP審査員を講師に迎え、生産部会連絡協議会合同でGAP講習会を開催し、69名の出席がありました。



～主な課題～

- 職員・生産者へGAPの必要性を周知
- シートを活用した更なる取組みの推進

農業生産工程管理（GAP）に取り組みましょう

I GAP(Good Agricultural Practice) とは？

農業生産活動の持続性を確保するため、
①食品安全・環境保全・労働安全に関する法令等を遵守するための点検項目を定め、

食品安全（点検項目例）

農薬の取扱いや異物の混入などに
気をつけよう



環境保全（点検項目例）

廃棄物は
適切に処分しないとね



労働安全（点検項目例）

事故を起こしてケガしないように
作業環境の改善をしよう



②これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつづ生産工程の管理や改善を行う取組の事です。

畜産生産基盤の維持・支援の強化

＜農家相談機能の強化＞

- 職員の知識向上を目的に、窓口研修会、畜産資材研修会、養牛基礎コース等へ延べ9名が参加しました。
- さがみ都市農業保全対策協議会と連携し、防疫対策を目的にDL消石灰を無償配布いたしました。※豚15戸75袋 養鶏9戸27袋

＜飼料購買機能の強化＞

- 飼養管理の省力化、効率化資材技術の提案として、低価格配合飼料「デーリートップ（乳配）」を飼養管理指導とあわせて引き続き推進しています。

※農場使用数：3農場

また、乾牧草（イタリアンストロー）の安定供給に努めるとともに、稲わら供給について検討しています。



＜販売力の強化＞

- 販路拡大、さがみ産畜産物のPRを目的に、県主催の「かながわ農林水産物マッチング商談会」へ参加しています。
- 2014年商標登録を行った「湘南和牛」の消費拡大を目的に、より一層のPRに努めています。



視点3 生産購買事業の再構築・強化に向けた取組み

低コスト資材に係る取組み 【28年度、29年度の取組成果】

- 肥料取りまとめでは、平成29年6月より品目を選定し特別価格を設定することにより価格引き下げを行いました。平成29年秋肥料取りまとめでは10銘柄にて特別価格を設定し、前年対比160%の供給をしました。

(単位：円)

品 名	規格	28年4月 当用配達価格	29年秋肥 特別自己取り価格	差額
JAさがみ専用化成444	20kg	2,278	1,512	▲ 766
清和高度化成444	20kg	1,587	1,193	▲ 394
野菜小町	20kg	2,602	1,754	▲ 848
石灰窒素(粒)	20kg	3,423	2,817	▲ 606
顆粒タイニー	20kg	1,069	527	▲ 542
苦土タンカル(紙袋)	20kg	864	325	▲ 539
げんきくん特号	20kg	1,598	996	▲ 602
発酵ケイフン	15kg	712	239	▲ 473
新牛糞堆肥	16kg	1,015	485	▲ 530
みのり堆肥	20kg	1,036	500	▲ 536

※清和高度化成444は28年11月当用配達価格

(価格はすべて税込)

～主な課題～

- 取扱量拡大に向けて供給品目の検討と経済渉外を中心としたTAC訪問による推進強化および手数料確保

低コスト資材に係る取組み 【30年度の取組成果】

- 平成30年秋肥料の取りまとめでは、配合肥料15銘柄にて特別価格を設定し、約3,500袋を供給しました。

単位：円

品 名	規格	29年4月 当用配達価格	30年秋肥 特別自己取り価格	差 額
JAさがみ専用配合785	20kg	2,031	1,558	▲473
オールミックス1	20kg	2,328	1,848	▲480
有機入りオールミックス763	20kg	2,512	2,033	▲479
CDU入りオールミックス	20kg	2,515	2,061	▲454
野菜名人	20kg	2,933	2,462	▲471
追肥専用NKマグ	20kg	2,178	1,705	▲473
そさい配合2号	20kg	2,232	1,761	▲471
馬鈴薯配合S30号	20kg	2,828	2,350	▲478
大根配合1号	20kg	2,122	1,657	▲465
キャベツ配合246号	20kg	2,250	1,774	▲476
ほうれん草専用NP配合	20kg	2,259	1,787	▲472
ほうれん草専用配合	20kg	2,531	2,060	▲471
白菜配合1号	20kg	2,067	1,602	▲465
ネギ専用配合	20kg	2,674	2,194	▲480
玉ねぎ専用配合S555	20kg	3,069	2,596	▲473

※CDU入りオールミックスは29年11月当用配達価格

- 全農かながわと連携した肥料の銘柄集約による「新たな共同購入運動」に取組み、平成29年12月より「化成肥料14-14-14」の取扱いを開始しました。さらに平成30年7月より「化成肥料8-8-8」の取扱いを開始し、価格引き下げを実現しました。

この取組みにより、平成30年度における「化成肥料14-14-14」の取扱いは、前年度実績から14,000袋を超える18,872袋を供給することができました。

品 名	規 格	29年度実績 (29年12月より取扱開始)	30年度実績
化成肥料14-14-14	20kg	4,100袋	18,872袋

単位：円

品 名	規格	当用価格	予約価格	自己取り 予約価格
化成肥料14-14-14	20kg	1,593	1,344	1,236
化成肥料 8-8-8	20kg	1,535	1,287	1,179

※価格は平成31年度 春肥料価格

～主な課題～

- 全農かながわと連携した新たな銘柄集約による価格の引き下げの検討
- TAC訪問による推進を強化した取扱量の拡大



- 全農かながわと連携し、平成28年4月より供給品目の大量仕入れによる黒マルチ 95・135、8月には穴あきマルチ9230中穴を取扱い、平成29年10月からは穴あきマルチ9515中穴の取扱いを開始することで、ホームセンターと比べても廉価な価格で供給しました。

品 名	規 格	28年度実績	29年度実績	30年度実績
黒マルチ	0.02 * 95 * 200	1,166本	1,157本	1,276本
黒マルチ	0.02 * 135 * 200	409本	438本	383本
黒マルチ中穴9230	95 * 200	320本	481本	516本
黒マルチ中穴9515	95 * 200	—	180本	291本

単位：円

品 名	規 格	当用価格	自己取り 予約価格	差 額
黒マルチ	0.02 * 95 * 200	1,382	1,231	▲151
黒マルチ	0.02 * 135 * 200	2,041	1,922	▲119
黒マルチ中穴9230	95 * 200	2,419	2,289	▲130
黒マルチ中穴9515	95 * 200	2,419	2,289	▲130

～主な課題～ ○引続き全農かながわと連携し、供給品目の選択と、取扱量の拡大の両立を検討。

- ジェネリック農薬の促進として除草剤「クサクリーン」の取扱いを平成29年2月より開始しました。

品名	規格	29年度実績	30年度実績
クサクリーン	500ml	672本	516本

～主な課題～ ○新たな低廉商品の取扱い検討

- 平成28年12月に農業用生産資材展示予約会を開催してから、好評につき、毎年、継続開催してきました。

平成30年12月7日（金）、8日（土）には第3回の開催となり、多くのご来場者の方へ農業用生産資材のさまざまな情報提供と新商品に係る機能情報を提供いたしました。

（開催場所：ごしょみ幼稚園跡地）



～主な課題～

- 展示会については、集客数の向上施策を検討し、展示会開催コスト削減に合致するような、開催方法・商品選定・開催場所の検討

- 新たな情報発信を目的に広報誌「さがみ」の資材ショップコーナーで、新商品・資材情報などを掲載し情報提供に努めました。職員の知識向上を目的に商品研修会に参加しました。

～主な課題～

○HP・広報誌の掲載内容を充実させ、情報提供の実施



- 職員の知識向上を目的に商品研修会に参加しました。

～主な課題～

○研修実施回数の見直し、内容の充実を検討



- 農業の担い手への支援を目的に、農業融資・農業応援プログラムに関する研修会へ組織経済部職員24名が参加しました。

～主な課題～

○応援プログラム事業該当者への確実な周知・申請が必要

- 新規就農者へ農業所得向上に向けた栽培品目の拡充、新たな栽培形態、技術導入の支援をはかるとともに、次代の担い手となる農業後継者とJAとのつながりを目的に過去5カ年の新規就農者激励会出席者を対象にTAC訪問を営農経済センター職員と技術顧問が行っています。さらに、一部地域では県農業技術センター普及指導部と連携し、同行訪問を行っています。

※訪問対象者：62名

～主な課題～

○担い手農家の支援ニーズに応え、営農に関する提案を行うことができる職員の育成



- 農業塾卒業生の管内直売所への出荷体制の確立に向け、取組みやすい品目の栽培指導と技術支援をはかり、JAとのつながりを強化することを目的に、過去5カ年の卒業生を対象にTAC訪問を営農経済センター職員と技術顧問が行っています。

※訪問対象者：81名

～主な課題～

○担い手農家の支援ニーズに応え、営農に関する提案を行うことのできる職員の育成



●部門横断的に「就農相談プロジェクトチーム」を設置し、将来の担い手育成に取組みました。

※プロジェクト開催 36回

- 栽培技術などの営農指導
 - 農畜産物の販売先
 - 生産資材の相談
 - 各種組織への加入相談
 - 農業用資金の相談
 - その他、行政や専門家などとも連携していきます。
- また、経営相談や結婚相談などにも応じます。



●就農相談プロジェクトを利用している新規就農者がインゲンプロジェクトに参加。

巡回指導により、労働力にあつた作付面積を提案。
育苗期のトラブルにも対応、
出荷に結びつけることができました。



～主な課題～

- インゲンのみではなく、年間の作付計画提案の必要

●担い手作りの育成支援に努め、就農相談プロジェクトを進めた結果、さがみ管内で新たに29名（平成28年度 7名、平成29年度 13名、平成30年度 9名）が就農しました。



都市農業の多面的機能のPR活動

- 「やっぱり国産農畜産物推進運動」
～みんなのよい食プロジェクト～
28～30年度にかけて、茅ヶ崎駅、大和駅、
湘南台駅周辺等で地域の方々に地場野菜
を配布し、PRしました。



- 都市農業振興基本計画に係る生産緑地法改正により、面積要件の緩和や一団の農地要件に係る条例制定等を管内7市行政
に対し要請し、4市（藤沢市、茅ヶ崎市、鎌倉市、海老名市）に
おいて下限面積の緩和がはかられました。

また、各地区にて生産緑地制度等の説明会を行いました。

※7地区：388名出席

～主な課題～

- 3市行政に対する下限面積緩和の継続的な働きかけ
- 改正生産緑地法および関連制度の継続的な周知

- 農畜産物を対象とする収入保険制度の周知に伴う説明会を
各地区で上期から下期にかけて行いました。

※8地区：320名

～主な課題～ ○収入保険制度の継続的な周知



都市農業の多面的機能のPR活動

- 地域コミュニティFMでJAさがみのコーナーを提供し、地域の農業を紹介して
います。あわせて、JAグループ提供テレビ・ラジオ番組で管内農業を紹介し、地
元農業の重要性と必要性をアピールしました。



- ホームページ動画などで、農業・組織・協同組合運動の現場の生き生きとした様子を若い
世代を含めた広い消費者層に伝えました。



直売所を核とした都市農業の役割発揮

- ホームページで「店長ブログ」を運営、幅広い層に直売所の生きた
情報を発信しました。

わいわい市 店長ブログ



准組合員・地域住民との交流

- 小学生を対象としてバケツ稲づくりを企画するとともに、地場野菜を使った食育講座開催に取り組んでいます。
- 准組合員を対象に「さつまいもスクール」等を開催し、農業への理解醸成を行いました。



- 准組合員向け広報紙「さん＊さん・さがみ」を季刊発行。地域や農業、食、に対する情報発信に努めています。
- 地域住民向け広報紙「ゆめふる」を発行。地域の農業・農畜産物に親しみを持ってもらう情報発信に取り組んでいます。
- マスコミ、フリーペーパー、電子メディアなどさまざまな媒体で、さがみ農業、農畜産物のPRを行なっています。
- 各支店等における「1支店1活動」の報告については、31頁～34頁に掲載しています。



各地区・各営農経済センターの主な取組実践状況

藤沢南営農経済センター

【販売力の強化に向けた取組み】

- 各出荷組合での生産者と出荷先市場との反省会及び次年度に向けた出荷検討会の実施
- 各出荷組合で農業技術センター・種苗会社等との同行巡回・栽培講習会・品種検討会の実施
- 撰果トマトの販売統一による市場販売力の強化と資材統一
- マックスバリュ向け試食販売（とうもろこし・トマト）
- フジスーパー・ロピア向けトマト試食販売
- カブ・ブロッコリー各部会の規格統一
- JA湘南との合同トマト小箱出荷
- 新品種導入（トマト・キャベツ）
- ライフ向けキャベツ契約販売の実施
- 学校給食向け朝取りとうもろこし契約販売の検討
- ぶどう（藤沢産藤稔）使用江ノ電グレープグミゼリーの販売



【生産購買事業の再構築・強化に向けた取組み】

- 職員向け水稻除草剤講習会の実施

【新規就農者・農業後継者へのサポート強化に向けた取組み】

- 農業技術センター及び行政と連携した新規就農者への巡回

藤沢南営農経済センター

【都市農業経営・営農への理解醸成に向けた取組み】

- 農業新聞によるトマト特集産地PRやFMヨコハマによる産地PR
- 藤沢市食育講座への協力

藤沢北営農経済センター

【販売力の強化に向けた取組み】

- 藤沢市と連携し、学校給食（御所見小学校）に農産物を供給
- 撰果トマトの販売統一による市場販売力の強化と資材統一
- キュウリの朝出荷による有利販売
- 直売所における栽培講習会の開催
- 東急スーパーへの販売強化のため品目追加（トマト・トウモロコシ・エダマメ・インゲン・キュウリ）
- マックスバリュEXでの対面販売
- 各出荷組合の栽培講習会、春作反省会、市場巡回の実施
- 加工用野菜の出荷（ハクサイ・キャベツ・レタス・ダイコン）
- 大植木まつり・植木品評会の開催



藤沢北営農経済センター

【営農指導の強化に向けた取組み】

- 土壌診断の結果をふまえた肥料管理指導によるコスト低減
- 天敵農薬による作物効果調査の実施

【生産購買事業の再構築・強化に向けた取組み】

- 地元行事に参加、購買品の販売
- 各販売組織ならびに植木生産組合への生産資材等購買品の取りまとめの実施
- CS改善活動を通じた資材等の研修会の開催

【新規就農者・農業後継者へのサポート強化に向けた取組み】

- 行政との連携による新規農業参入相談会の開催
- 融資を受ける生産者に対する営農計画作成支援
- 観光農園（ブルーベリー）における加工品化への検討
- 加工用野菜の出荷推進による所得向上

【都市農業経営・営農への理解醸成に向けた取組み】

- 各支店まつりでの地場野菜の直売・PR
- 御所見小学校が地元産業としてトマト撰果場を見学、農業への理解推進・食育活動
- 生協・漁協・農協による地産地消イベントの開催（湘南辻堂とれたて市）
- 庭先販売充実のための自動販売機の設置



茅ヶ崎営農経済センター

【販売力の強化に向けた取組み】

- 各メディアを通じPRを実施、日本大学との産学連携によるナスフェアへの参加、茅ヶ崎市特別観光大使「えぼし麻呂」のポップ作成などにより、販売金額の向上
- 枝豆に新出荷資材導入、出荷量と販売金額の向上
- 各出荷組合での生産者と出荷先市場との反省会及び次年度に向けた出荷検討会の実施
- 新品種（ほうれん草、小松菜、ニンジン、ブロッコリー等）の試験栽培を実施
- サミット向けの計画出荷販売を行い、農業所得向上
- フジスーパー、マックスバリュEXで対面販売
- イオン茅ヶ崎中央店にて鉢物の即売会を実施
- 撰果トマトにおけるスタンドパックの改良による販売力の強化



【営農指導の強化に向けた取組み】

- トルコナス栽培においてマリーゴールドをバンカープランツとしてカメムシを利用したアザミウマ防除の指導を実施
- TAC活動の訪問強化をはかるため、推進状況の管理によるフォロー推進の実践

茅ヶ崎営農経済センター

【営農指導の強化に向けた取組み】

- 各品目（トマト、葉物、果樹、スイートピー、水稻等）における土壌診断を実施し、適切な施肥設計を行い、肥培管理
- 端境期における品種提案講習会を種苗メーカー3社を招いて実施

【生産購買事業の再構築・強化に向けた取組み】

- サカタのタネとの同行訪問により、営農指導の充実とともに購買事業の実績拡大
- タキイ種苗との同行訪問により、営農指導の充実とともに購買事業の実績拡大



【新規就農者・農業後継者へのサポート強化に向けた取組み】

- 行政との連携による新規就農者農業参入相談会の開催・巡回、営農指導を実施

【都市農業経営・営農への理解醸成に向けた取組み】

- 茅ヶ崎市内小学校で水稻田植え講習会の開催
- 生活協同組合と連携し「とれたてトラック市」を開催
- 農家組合員・販売課職員が指導者となって、地区内の准組合員を対象に、植付～管理～収穫等、一連の農作業が体験できる「さつまいもプロジェクト」を開催、また、収穫したサツマイモを使用しての料理講習会の開催（参加者数：作業体験350名 料理講習会 20名）



寒川営農経済センター

【販売力の強化に向けた取組み】

- フジスーパー寒川店の店頭にて、出荷者による地元農産物対面販売会の開催（5月・6月・7月・11月・12月・1月→計6回）
販売会用の横断幕を作成して地元農産物をPR
- フジスーパー青果バイヤーと、倉見店への直納出荷を現在協議中
- サカタのタネを講師として招き、フジスーパー出荷者に対し、7月に秋冬野菜品種講習会、1月に春夏野菜品種講習会を開催
- さむかわ産マスクメロンの果汁を使用した「めろんみるく」を2018年3月より管内直売店舗にて販売開始（2月末売上実績8,700袋）また、(株)しいの食品とタッグを組み、商品宣伝を目的として、江ノ島電鉄の車体広告及び中づり広告の実施、今作のメロン（原料）をサクマ製菓(株)へ出荷（取組継続）
- 梨ジャムへの取組みによる地元の梨のPR

【営農指導の強化に向けた取組み】

- 農業技術センターとの連携により、作物別部会（スイートピー・カーネーション・メロン・いちご）会員の土壌診断を実施し、分析結果を踏まえた施肥管理によるコスト低減肥培管理の提案

【生産購買事業の再構築・強化に向けた取組み】

- わいわい市寒川店の「園芸フェスタ」へ参加し、園芸資材や農機具、小袋肥料などの展示・販売



寒川営農経済センター

【新規就農者・農業後継者へのサポート強化に向けた取組み】

- 技術顧問とともに、農業塾卒業生・新規就農者へのTAC訪問により、経営を含めた営農指導と生産購買品等の情報提供の実践

【都市農業経営・営農への理解醸成に向けた取組み】

- 寒川町と連携し、さむかわ農業への理解とともに「花のまち さむかわ」のPRとして、町民を対象とした花育活動として、「フラワーアレンジメント体験」を5回、ならびに「寄せ植え体験」を2回開催



綾瀬営農経済センター

【販売力の強化に向けた取組み】

- 共販出荷物をグリーンセンター綾瀬等へ買取販売実施（トウモロコシ日量5ケース～15ケース、他品目は必要に応じて実施）
- キュウリ、トマト、レタス、トウモロコシ、ナスの朝取り出荷により有利販売を実施
- 生産者とJA担当者が量販店等に出向き販売促進（PR活動）実施
 - レタス：横浜澤光・横浜高島屋 ●トウモロコシ：Ave横須賀、綾瀬市役所
- 綾瀬市露地野菜7部会合同現地視察及び検討会の実施
- 北海道：株式会社ワタリ・株式会社東光ストア



綾瀬営農経済センター

【販売力の強化に向けた取組み】

- 綾瀬市と協力し、トウモロコシブランド化PR活動として横浜駅に8日間ポスターを掲示、また、グリーンセンター綾瀬へポスターを掲示し、共販出荷の販売強化とあやせ市産青果物のPRを実施
- レタス共同播種による安定出荷安定販売強化
- トウモロコシ綾瀬市ブランド認定第1号（菜速あやせコーン10名）
- 梨販売で湘南梨周知拡大をはかるため市場出荷を昨年同様高座4地区で実施
- 学校給食への買取販売（キュウリ、トマト、キャベツ、ナス）
- 来店者増加をはかるため、グリーンセンター綾瀬店舗外売りを実施（土日祝）
- トウモロコシもぎとり体験（綾瀬市）と、ひまわりまつり（座間市）との連携をはかり、販売促進活動を実施

【営農指導の強化に向けた取組み】

- 各生産部会による品種試験栽培の実施
- 施設野菜における熱水、太陽、還元消毒等の土壌消毒の推進
- あやせ堆肥組合の堆肥利用拡大に向け、各生産部会への利用促進を実施



綾瀬営農経済センター

【生産購買事業の再構築・強化に向けた取組み】

- トウモロコシ栽培にて使用生分解マルチ取りまとめによる一括共同購入(200本)
- 各生産部会による肥料・農薬・資材の共同購入取りまとめの実施
- グリーンセンター綾瀬購買店舗にて経済担当職員の育成をはかるため、営農相談や農薬案内等職員の定期的な常駐を実施

【新規就農者・農業後継者へのサポート強化に向けた取組み】

- 農業者機械作業技術向上および農作業安全意識向上をはかるため、農業機械安全講習会を実施

【都市農業経営・営農への理解醸成に向けた取組み】

- グリーンセンター綾瀬5周年及び植木市イベントの開催
- 綾瀬市親子ふれあい農業体験の開催
- 綾瀬市援農ボランティア制度における支援
- あやせ大納涼祭にてあやせ市産梨の無料配布
- 綾瀬市文化会館フェスティバルにて購買品販売の実施
- 綾瀬営農経済センターとグリーンセンター綾瀬の協賛による「組合員及び店舗利用者対象花火大会旅行」の企画・開催



大和営農経済センター

【販売力の強化に向けた取組み】

- 管内量販店への地場農産物の直納
- 市内小・中・保育園の給食センターへの地場農産物の供給
- 各市場の市況を比較し、有利販売ができる市場との商談実施
- 直売組織において、出荷数量・品目などについて出荷者全員による定期定例会を開催



【営農指導の強化に向けた取組み】

- 個々の栽培技術向上に向け、各部会単位にて定期的に栽培講習会・圃場巡回等を実施

【生産購買事業の再構築・強化に向けた取組み】

- 各部会での注文取りまとめにより、安価な資材の提案を実施

【新規就農者・農業後継者へのサポート強化に向けた取組み】

- 種苗会社による野菜苗の講習会を実施
- 直売向け野菜苗の動向、新品種などについての研究
- 技術顧問とともに定期的な巡回により、栽培指導・荷作りなどの提案を実施



【都市農業経営・営農への理解醸成に向けた取組み】

- 市民まつりや各支店において、地場野菜の直売およびPR活動を実施
- グリーンセンター渋谷において、地元野菜のPRを目的とした生産者による店頭販売を実施
- 行政との連携による収穫体験等「親子農業めぐり」を開催
- 昨年に引続き食育活動の一環として、聖セシリア学園にて、さつまいも栽培の授業を実施

鎌倉営農経済センター

【販売力の強化に向けた取組み】

- 鎌倉市野菜勉強部会で勉強会を開催し、栽培方法や品種などの情報提供を実施
- メーカーからの情報をもとに新商品の情報提供
- 新規出荷者の勧誘により1名が新規登録・出荷開始

【営農指導の強化に向けた取組み】

- 農業機械受委託利用事業をPRし、3戸・5回の作業を受託
- 抵抗性品種の作付を提案し、収量と秀品率の向上



【生産購買事業の再構築・強化に向けた取組み】

- メーカーとの同行訪問により、種子等新商品の情報提供

【新規就農者・農業後継者へのサポート強化に向けた取組み】

- 新規就農者・農業塾卒業生への巡回指導
- 新規就農者営農支援事業に4名の後継者が申請・受理



【都市農業経営・営農への理解醸成に向けた取組み】

- 支店まつりやマルシェなどへの支援、収穫まつりの開催
- 市民農園開園式に参加し、野菜栽培を指導・支援
- 生産者・営農指導員による「鎌倉やさい講習会」の開催
- 小・中学生等への食育指導・発表会への参加



座間営農経済センター

【販売力の強化に向けた取組み】

- イオンモール座間にさま産野菜を出荷するとともに地場野菜コーナーの充実をはかるため、新たな品目、作型を組合員に提案 ※登録者数は14名（2月末現在）
- 座間市出荷部会によるイオンモール座間でトウモロコシの店頭販売を実施
- 行政との連携により、トウモロコシ、メロンを市役所等各関係機関へ販売
- 種苗会社と連携し、ほうれん草栽培講習会、ネギ栽培講習会を実施
その後、播種から販売までの営農指導を行い、端境期に合わせた作型の提案



【営農指導の強化に向けた取組み】

- 土壌診断により、分析結果をふまえた肥料管理指導を実施し、コスト低減および収量の増加
- トマト組合活動において生産資材展示予約会の視察を行い、メーカーと直接、新しい情報交換の実施
- はるみ生産者に栽培管理から収量調査まで聞き取りを行い、座間地区における施肥管理の検討

【生産購買事業の再構築・強化に向けた取組み】

- センター通信を通じて、管内のさまざまな課題解決に役立つ記事を掲載し、営農情報・資材情報を提供
- 農機の新規購入時において、JA応援プログラムを活用したコスト軽減（8件）



座間営農経済センター

【新規就農者・農業後継者へのサポート強化に向けた取組み】

- 技術顧問との同行訪問とともに出荷増をはかるため栽培指導や出荷形態、販路等の情報提供を実施

【都市農業経営・営農への理解醸成に向けた取組み】

- 地域住民や観光客へさま産農業への理解醸成をはかるため、様々なイベントやFMヨコハマ等の媒体を通じて、地場農産物のPRとともに座間産大豆を使用した豆腐等の販売促進を実施
- 座間市内小学校を対象とした圃場見学を実施し、食育活動に貢献
- 米ディ店舗イベントにて、座間産新米の食味比較を行い、座間産米のPR



海老名営農経済センター

【販売力の強化に向けた取組み】

- 市民に地場野菜をアピールするため、イオン・マルイ・ダイエー・九州屋に「地産地消推進実行委員会」を通じ、野菜・花卉等を供給
- 「海老名いちご」1月に「かながわブランド」取得
- 「海老名市ブランド化検討委員会」により、ICT技術を活用した大粒いちご栽培実施検証
- えびな産農産物を学校給食へ供給していくため、生産者、市場との直接交渉による調達、目合わせの実施。また、青壮年部による学校給食用の野菜栽培の検討



海老名営農経済センター

【販売力の強化に向けた取組み】

- 水稻の裏作として、全農と連携し、試験圃場にてたまねぎ苗を定植育成中
- 海老名グリーンセンターの集客・売上向上をはかるため、月2回の定期的なイベントを開催

【営農指導の強化に向けた取組み】

- 健全なる土壌施肥を目指すため、定期的な土壌診断分析の実施

【生産購買事業の再構築・強化に向けた取組み】

- 資材コスト軽減をはかるため、水稻農薬の独自回覧注文取りまとめの実施
- 全農及び農薬・肥料・資材メーカーとの同行推進の実施



【新規就農者・農業後継者へのサポート強化に向けた取組み】

- 海老名市園芸協会 苺部会・トマト部会員に対するGAP研修会の実施
- 新規就農者へのTAC訪問により、経営を含めた営農指導と生産購買品等の情報提供の実践

【都市農業経営・営農への理解醸成に向けた取組み】

- 海老名の農産物をモチーフにした地産地消ポスターコンクールの実施
- 海老名中央公園にて、海老名市いちごフェアへ参加し、市民にPR
- 海老名市園芸協会による地場農産物PR即売会を開催
- 食育活動として市内小学校における野菜についての講演会ならびに、園児を対象としたトマト・レタス収穫体験の実施



平成30年度「1支店1活動」報告 ～組合員・地域住民との交流～

営農・経済改革プラン 視点5.「都市農業経営・営農への理解醸成に向けた取組み」および「農業振興と農業の多面的機能の発揮」として、組合員・地域住民との交流活動の促進をはかるため、「1支店1活動」の実践を通じて、都市農業への理解醸成とともにJAが農業と地域振興に深く関わることにより、「JAさがみがあってよかった」「なくてはならない存在である」と言ってもらえるよう、役職員一丸となり、さまざまな諸活動を展開しました。



平成30年度「1支店1活動」報告



地区・支店名等	実施日	活動内容	アピールできる点	今後の取り組み・課題
小和田支店 茅ヶ崎営農経済センター	毎月15日	小和田市(地元野菜の即売)	組合員の所得向上	販売規模の拡大、出品者の拡充
鶴ヶ台支店 茅ヶ崎営農経済センター	毎月第3火曜	ふれあい朝市(地元野菜の即売)	地元農産物のPR	開催チラシの投函範囲の拡大
綾瀬地区	3月25日	あやせ健康ファミリーマラソン大会に協力参加	豚汁配布で地場産PR	好評につき同内容で継続
鶴間支店	4月 8日	ライラック通り商店会まつり	地元野菜、水出し緑茶をPR	時期的に野菜少なく、センターと連携
深沢支店	4月18日	野菜作り(職員が野菜栽培し、利用者へ配布)	地元の新鮮野菜をPR	季節に応じて栽培
座間地区	4月21日	座間地区ふれあい農業祭	地元農業、農畜産物のPR	農業所得向上に繋がるイベントの開催
茅ヶ崎地区	4月22日	春の農業まつり	新鮮野菜・花・焼豚が人気	継続実施、都市農業理解と農畜産物PR
柏ヶ谷支店	4月28日	柏ヶ谷地区用水路清掃・草刈り	重労働な用水路内の清掃を積極的に行なった	女性職員も参加して役立ちたい
渋谷支店 大和地区	4月29日	やまとふれあいの里レンゲまつり	野菜即売会、家族連れ多く、ちよリスの着ぐるみが人気	JAらしいイベント開催、スタッフの服の統一
南湖支店	5月11日	春の遠足わいわいバスツアー(地元牧場、わいわい市バスツアー)	安全・安心な農畜産物PR、わいわい市PR	募集人数を増加し、継続
大和地区	5月12日 13日	第41回大和市民まつり	野菜・花等の即売、営農指導相談で地域住民と交流	他出店者との調整等

平成30年度「1支店1活動」報告



地区・支店名等	実施日	活動内容	アピールできる点	今後の取り組み・課題
玉縄支店	5月、6月、8月の15日	玉縄マルシェ	生産者・JA・地域住民との交流の場づくり	来場者増やすため、年金受給日に開催
茅ヶ崎地区	5月19日～10月29日	茅ヶ崎地区さつまいもプロジェクト農業の応援団	さつまいも試食、カブの土産、料理講習会の開催等	継続開催、支店毎の募集方法を検討
綾南支店	5月22日	職員が組合員宅での農作業体験	組合員と親近感をもて、来店客には野菜を紹介	通年で色々な農作業を手伝う
寒川地区	5月24日	ミニデイサービス	地域福祉活動に貢献をPR	組合員の高齢化により労力援助が必要
南湖支店	5月30日	南湖支店地元野菜ミニ即売会	生産者売上げ貢献、地元野菜PR	時期や気候を考え計画的に継続
寒川地区	6月 3日	相模川美化キャンペーン(支店、センター職員が河川敷等を清掃)	幟旗とロゴ入Tシャツ着て地域貢献活動	今後は農業貢献活動に取組む
善行支店	6月12日 26日	地域活動「善行駅前通り草取りと花植え」への参加	地域住民と親しみ、ロゴ入上着で地域貢献活動	職員参加のための日程調整、事業案内
寒川地区	6月14日	ミニデイサービス	地域福祉活動に貢献をPR	組合員の高齢化により労力援助が必要
綾西支店 綾瀬営農経済センター	6月21日	初夏の感謝祭	ジャガイモ料理とキュウリ漬物を配布し、地元野菜PR	来場者増加、新規イベントの企画
有馬支店	6月22日	青壮年部との田植体験	組合員と交流し、農協事業への理解を深める	稲刈りも参加し、更なる交流を深める
善行支店	6月28日	ミニデイサービス	助け合い組織の活動を参加者に理解してもらった	総合事業を案内する時間をとる

平成30年度「1支店1活動」報告



地区・支店名等	実施日	活動内容	アピールできる点	今後の取り組み・課題
柏ヶ谷支店	6月30日	柏ヶ谷支店感謝祭	柏ヶ谷産椎茸を配布し、地元野菜をPR	市の広報に掲載してより広く開催周知
大船支店	7月 7日	野菜即売会	焼トウモロコシと焼きそばで地元野菜PR	より盛り上がるよう組合員と職員で検討
深見支店	7月 8日	深見支店感謝祭	地元野菜をPR、事業・取り組みを紹介	より多くの組合員参加、地域住民へPR
寒川地区	7月16日	寒川みこし祭り	お揃いポロシャツで地域イベント参加、地域貢献をPR	来店客への事前周知、若い世代へのPR
善行支店	7月20日	さわやか倶楽部善行支部「お料理教室」	わいわい市で購入した食材で、地産地消をPR	Aコープ商品利用で事業理解を深める
羽鳥支店	7月21日	湘南辻堂とれたて市への参加	管内農家の花をPR、県米はるみのすくい取りが人気	より多くの人に来場してもらう
寒川地区	7月24日	夏休み親子料理教室	親子で地場産食材で料理、地産地消をPR	周知方法や料理内容を検討
有馬支店	7月25日	えびなっ子「サマースクール」(地元小学校で農協事業の説明等)	地域住民との交流、農協事業への理解深める	今後も積極的に参加
鵠沼支店	8月 3日	第33回鵠沼支店納涼祭	組合員と懇親し、演芸で職員のダンスで盛り上がった	継続開催、参加者の座席確保を検討
つきみ野支店	8月 3日	介護施設夏祭りへの参加	取引拡大し、農協事業をPR、地域貢献をPR	購買ブース以外に、野菜直売等も検討
西鎌倉支店	8月 3日	商店会夏祭り	西鎌倉産野菜の配布、アンケートの実施	マンネリ化しないよう新たな取り組みを実施

平成30年度「1支店1活動」報告



地区・支店名等	実施日	活動内容	アピールできる点	今後の取り組み・課題
倉見支店	8月 4日	倉見自治会盆踊り大会	お揃いのTシャツで地域密着、ボード等で事業PR	チラシ配布等を行いたい
茅ヶ崎地区	8月 5日	なんでも夜市	高座豚の焼肉、ちがさき牛の串焼き販売が好評	地元農業をPRでき、継続実施
座間支店	8月 7日 ～22日	座間市の花 ひまわりをプレゼント(切花に種とメッセージ添えて)	ひまわりまつりPRで会場の地場産野菜直売を案内	周知やキャンペーンで事業に繋げたい
善行支店	8月13日	さわやか倶楽部善行支部「盆踊り大会」	地域住民と交流し、農協を身近に感じてもらえた	総合事業を案内する時間を設ける
村岡支店	8月19日	村岡地区夏期一日清掃	ロゴ入Tシャツ着て参加、地域住民と交流	交流を深め、農協事業に理解いただく
藤が岡支店	8月19日	村岡地区夏期一日清掃	参加者へ足柄茶を配布してPR、地域住民と交流	地域貢献活動として継続
綾瀬地区	8月25日	大納涼祭(よい食PR)	地場産梨を配布し、食の安全・安心をPR	端境期のため配布農産物が限られる
綾瀬地区	8月25日	アンパンマン交通安全キャラバン	子育て世代に事業のPR	来場者・スタッフの熱中症対策
茅ヶ崎支店	9月15日	茅ヶ崎支店 秋祭り	幅広い年齢層の地域住民との触れ合い交流	継続実施、離れた会場への来場者誘導
茅ヶ崎地区	9月18日 19日	組合員視察研修会	直売所視察により組合員の研鑽と交流を深める	視察先や募集方法の検討
綾西支店 綾瀬宮農経済センター	10月13日	秋の感謝祭	蒸かしさつまいもの無料配付、JA事業のPR	継続開催、来場者増で、JAへの理解・PR

平成30年度「1支店1活動」報告



地区・支店名等	実施日	活動内容	アピールできる点	今後の取り組み・課題
綾北支店	10月15日	感謝祭	地元農産物PR、事業案内、直売所紹介等	来場者拡大、農産物収穫期に開催
遠藤支店	10月20日	2018JAまつり 農産物詰め放題、大根の収穫体験	農産物や加工品等の販売、組合員・地域住民との交流	アンケート回収や活用方法
南湖支店	10月30日	やんべえよ祭り	安全安心な農産物の大切さPR、JA事業への理解	継続実施、地域住民が楽しめる出店
茅ヶ崎地区	11月 3日	秋の農業まつり	野菜に調理レシピを添付、花苗プレゼント	継続実施、都市農業理解、地域農業PR
大庭支店	11月10日	大庭支店ふれあいまつり	地元野菜の無料配付、協同活動紹介パンフ配布	継続実施、人員配置、若い世代の呼び込み
鎌倉支店	11月14日	鎌倉支店企画旅行	参加者と良い交流でき、貯金取引に繋がった	日帰り企画で新しい観光名所を提案
藤が岡支店	11月18日	藤が岡支店JAまつり	地元野菜と餅の販売が人気、ヨーヨー・風船無料配布	継続実施、地域とふれあい、農業等PR
深沢支店	11月25日	秋の収穫まつりへの出店	地域住民・若年層へPR、アンケート回答で花プレゼント	来場者多く、人員配置・くじ数を増加
遠藤支店	12月 3日 ～28日	じものさんキャンペーン	キャンペーンチラシ配布し、アンケート回答で抽選会	若年層へのアピール検討
綾西支店 綾瀬営農経済センター	12月21日	年末の感謝祭	年金紹介者に粗品贈呈、抽選券実施、地域交流	継続実施、来場者増やすため新規企画
つるみね支店	12月24日	ちがさき茅産茅消 とれたてトラック市への参加	ユーコープ利用者へJA事業PR、山芋そば配布	準備期間をとり、職員全員で盛上げる

平成30年度「1支店1活動」報告



地区・支店名等	実施日	活動内容	アピールできる点	今後の取り組み・課題
藤沢支店	12月26日	藤沢支店 野菜即売会	地域住民に地元野菜を知ってもらう、JA事業PR	定期開催で定着化
南湖支店	1月28日	地元新鮮野菜 即売会	値ごろ感の販売価格で売上増、地元野菜PR	開始早々売り切れ品があり、追加販売



年次別実践計画進捗状況



販売力の強化に向けた取組み

- マーケティング機能を強化し、営農台帳を活用した有利販売
- 販売力を発揮するための体制整備
- 買取り販売の研究
- 直売所の販売力強化
- 集荷施設機能整備に向けた研究

	28年度	29年度	30年度	実績	第5次「みどりの仲間プラン」での展開
本部機能の強化 営業開発を行う販売担当者の設置検討	人材選定	育成研修	設置検討	平成28年4月1日付けで職員の長期滞留者牽制措置実施内規を改正し、販売担当者の位置づけの明確化をはかりました。 販売担当者の設置に向け人材の選定・育成を目的に、販売戦略会議を共販主体・直売主体のブロックごとに開催、商品の企画力・提案力・商談力の向上に努めました。	■ 第5次都市農業振興戦略「みどりの仲間プラン」の優先事項として、「販売対策担当」の設置を予定
情報収集力の強化 市場量販店からの情報収集・コミュニケーションの強化	方針検討後 速やかに実施			かながわ農林水産品商談会・JAグループ国産農畜産物商談会など各種商談会へ参加し、3件との商談が成立、また、新規取引に向け、さがみ管内の農産物のPRに努め、今後の展開・拡大につなげています。	《農業主業型(ばりばりスタイル)において対応》 ■ 147万人を擁する消費地さがみ管内住民に向けた「さがみ産農畜産物を直接販売」の検討 ■ 販売プロジェクトによる協議・検討
出荷形態・規格の研究 実需者ニーズに対応した出荷規格の構築	実需者ニーズ	調査・研究	試行・確立	さがみ管内に3箇所あるトマト採果場の統一販売について協議を重ね、販売課による出荷窓口の一元化、規格・資材の統一をはかりました。また、JA湘南とトマト・キュウリに関し実需者のニーズに対応し、統一出荷規格を協議、JA間連携による高水準の価格形成に向け取組みを進めています。 ※JA間連携統一出荷箱(じゃん箱1kg)を作成	《農業主業型(ばりばりスタイル)において対応》 ■ 147万人を擁する消費地さがみ管内住民に向けた「さがみ産農畜産物を直接販売」の検討 ■ 実需者ニーズとの販売戦略の構築

年次別実践計画進捗状況



	28年度	29年度	30年度	実績	第5次「みどりの仲間プラン」での展開
市場外流通の研究 契約栽培、加工品需要に対応した販売経路の確立	調査・研究	試行実施	検証・確立	社会福祉法人との事業間連携において、加工用トマトの出荷量の拡大をはかり、加工施設体験研修を実施し、職員のスキルアップをはかり、品質向上に努めました。また、かながわ農林水産品商談会において、外食産業等に対して、トマト・キュウリ・梨のマッチングを行ないました。販路拡大を目的として、管内量販店フジスーパー・マックスバリュEXにて直納方式による地場野菜の販売を開始しました。	《農業主業型(ばりばりスタイル)において対応》 ■ 147万人を擁する消費地さがみ管内住民に向けた「さがみ産農畜産物を直接販売」の検討 ■ 新たな加工業者との販路構築 ■ 新たな品目の提案
直売所間流通システム 管内直売所との相互協力体制による需要の拡大	システム検討		試行 確立	店長会議及び販売戦略会議にて協議を行い、各地区の月別・品目別カレンダーを作成し、管内8店舗の品揃え強化に向けた相互協力体制の取組みを進めています。	《農業主業型(ばりばりスタイル)において対応》 ■ 集出荷・流通体制の構築 ■ 出荷状況、POSデータ分析、収益性等を踏まえて、直売所間流通システムの見直しを検討、一方で庭先集荷のニーズもあるため、庭先集荷を含めた直売所間流通システムの検討
買取り販売の研究 買取り販売の試行：「たまねぎプロジェクト」	実施方法検討		試行	買取り販売の経理処理を含め関係部署と協議を行い、農協事業としての整理を行なっています。また、株全農青果センターの協力のもと、3品種を選定、ダンボール・コンテナの貯蔵容器を利用しそれぞれ予冷库・常温の施設にて貯蔵試験を行いました。 さらに、育苗センターを活用し、たまねぎのセルトレー苗を育苗し、4名の生産者にて試験栽培に取組み買取りを実施しました。	《農業主業型(ばりばりスタイル)において対応》 ■ 147万人を擁する消費地さがみ管内住民に向けた「さがみ産農畜産物を直接販売」の検討 ■ 販売対策担当による、企画・分析を進めます。

営農指導機能の強化に向けた取組み

- 営農指導員体制整備
- 利用事業の強化

	28年度	29年度	30年度	実績	第5次「みどりの仲間プラン」での展開
営農指導員体制の再構築 階層別営農指導体制の構築	人材選定	育成研修	体制整備	人事担当部門と連携を行い、営農指導員の育成に向けた人事ローテーションの考え方を協議しています。また、専門的知識の習得をはかるため、営農指導技術向上研修会へ6ヶ月コース2名・果樹コース1名の職員派遣を行ないました。	《担い手ネットワークにて対応》 ■ 業務内容を再整理し、専念できる体制を検討 ■ 専門知識を備えた営農指導員の育成体制の構築
人事ローテーションの例外 ローターション例外・長期配属の体制確立	速やかに実施	内容検証	継続実施	平成28年4月1日付けで職員の長期滞留者率制措置実施内規を改正し、営農指導員の位置づけを明確にしました。	《担い手ネットワークにて対応》 ■ 営農指導体制の整備を進め、人事制度との連携方法と、運用方法を検討
営農台帳の整備・活用 営農台帳のシステム確立、TAC活動への活用	システム稼働	随時入力	TAC活用	平成28年度より稼働した営農台帳システムへ、平成30年度2月末現在2,397戸の農家基本情報データを入力し、TAC訪問活動や販売力強化に活用しています。	《担い手ネットワークにて対応》 ■ 営農台帳のデータをTAC訪問に活用・推進 ■ データ分析の体制整備

	28年度	29年度	30年度	実績	第5次「みどりの仲間プラン」での展開
情報収集と部門間連携の強化 TAC体制を有効活用した情報収集・共有化	速やかに実施	内容検証	継続実施	TAC訪問については、2,200戸の訪問目標戸数に対し、平成28年度3,781戸・平成29年度3,734戸・平成30年度4,368戸の訪問を行いました。引き続き、この訪問活動を継続し情報提供、組合員の意見・聴取を行っています。	《担い手ネットワークにて対応》 ■ 営農台帳のデータをTAC訪問に活用・推進 ■ データ分析の体制整備
育苗センターの有効運営 品目拡大に向けた野菜苗の生産・供給	体制整備	機材整備	試行・検証	種苗会社の協力のもと「たまねぎプロジェクト」の実現と育苗センターの稼働率の向上を目的に、たまねぎ苗のトレー栽培試験を行いました。	《担い手ネットワークにて対応》 ■ 種苗会社との連携による野菜苗の生産を研究 ■ 職員のスキル向上
オペレーター制度の充実 受委託作業、貸出し機械の仕組みづくりの検討	検討後、実現できることから実施			平成29年4月1日より営農課に専任担当4名を配置、平成29年10月より農協職員による農作業受委託を実施いたしました。専任担当者による作業実績 ※175件/2,007a/トレンチャー660m また、平成31年3月1日より農業機械レンタル事業を開始し、平成31年3月6日現在レンタル事業を希望される方は84名となっています。	《担い手ネットワークにて対応》 ■ 収益性を踏まえ、水稲に係る委託要望への対応を検討

年次別実践計画進捗状況

生産購買事業の再構築・強化に向けた取組み

- 低コスト資材に係る取組み
- 資材物流体系の再構築
- 資材情報の提供
- 組合員カードシステムの研究
- 職員の育成・研修の実施

	28年度	29年度	30年度	実績	第5次「みどりの仲間プラン」での展開
ニーズを捉えた供給品目の選択と商品充実					《担い手ネットワークにて対応》 ■ 廉価で高品質な肥料・資材等の取扱い
営農指導と連携した廉価な資材の研究と取扱い 系統外品目の仕入れ対応	速やかに実施			肥料取りまとめにおいて10銘柄の品目に、営農・経済改革プラン実践特別価格の設定を行いました。また、全農かながわと連携し、肥料の銘柄集約による「新たな共同購入運動」に取組み、「化成肥料14-14-14」の取扱いを開始し、更なる価格引き下げを実現いたしました。引き続き、全農、系統外の両輪にて良質で廉価な商品の取扱いを推進していきます。	
営農相談・TAC活動による生産コスト低減提案 JAねっとショップの利用拡大	速やかに実施			TAC活動により、低廉資材の取扱品目について、組合員へ情報提供を行いました。	《担い手ネットワークにて対応》 ■ TAC訪問による組合員への情報提供

年次別実践計画進捗状況

	28年度	29年度	30年度	実績	第5次「みどりの仲間プラン」での展開
利用者への情報提供					《担い手ネットワークにて対応》 ■ 集客数の向上施策を検討
生産購買品展示会の開催	企画検討	試行	確立	農業用生産資材のさまざまな情報と新商品に係わる機能情報を提供できる場として、平成28年度よりごしょみ幼稚園跡地にて農業用生産資材展示予約会を開催。本年度までに3回(6日間)開催し、合計2,042名の方に来場いただき、最新の情報提供を行いました。	
ホームページ、広報誌による情報提供	速やかに実施			広報紙「さがみ」の営農販売コーナーで新商品・資材情報などを掲載し、より役立つ情報提供に努めています。	《担い手ネットワークにて対応》 ■ ホームページ・広報誌の掲載内容を充実させ、情報提供を実施
職員の育成					《担い手ネットワークにて対応》 ■ 研修実施回数の見直し・内容の充実検討
階層別・目的別研修の開催 商品知識の習得	企画・検討	速やかに実施		平成28年度は営農経済センターの窓口、新任担当者を対象に全農かながわと連携し、「JAグリーンかながわ」で、実際の商品を確認しながらの品目研修会を開催いたしました。また、経済担当者を対象に、肥料・農薬・資材の商品知識の向上を目的に研修会を開催しました。	

年次別実践計画進捗状況



新規就農者・農業後継者のサポート強化に向けた取組み

- 就農支援体制整備
- 育成・研修プログラム
- 出荷調整施設、加工施設の設置研究

	28年度	29年度	30年度	実績	第5次「みどりの仲間プラン」での展開
総合JAとしての機能をフル活用した支援体制	体制整備	PT発足		部門横断的に「新規就農相談プロジェクトチーム」を設置し、平成30年度末現在、9名の担い手の相談を受け、育成に取り組んでいます。	《担い手ネットワークにて対応》 ■ 新規就農者の会議出席による対応の迅速化
就農相談プロジェクトチームの設置					
農家・行政・連合会との連携	連携構築	支援開始	検証と充実化	農業塾卒業生の出荷体制の確立に向け、過去5年間の卒業生を営農経済センター・技術顧問と連携してTAC訪問を行い、現在の課題・今後の目標に向けたサポートを行っています。	《担い手ネットワークにて対応》 ■ 販売に向けた指導内容について、農業塾の開催方法と併せて検討
農業塾拡充・メンター制度の導入					
育成研修の実施	連携構築	研修実施	検証と充実化	営農サポートセンターと連携し、営農・経済改革プランの進捗状況の確認と、今後の取組みやさがみ農協の要望について情報交換を行っています。また、平成29年度より課題別JA研究会を発足しました。営農指導員の育成に向け、神奈川県農業技術センターへの長期研修を計画し、平成29・30年度にさがみ農協より計3名の担当者を研修に参加させ、営農指導員の資質向上に努めました。	《担い手ネットワークにて対応》 ■ 課題別JA研究会の成果を活用し、OJTをすすめるとともに、長期研修への参加継続
営農サポートセンター(中央会・信連・共済連神奈川・全農かながわ)					

年次別実践計画進捗状況



都市農業経営・営農への理解醸成に向けた取組み

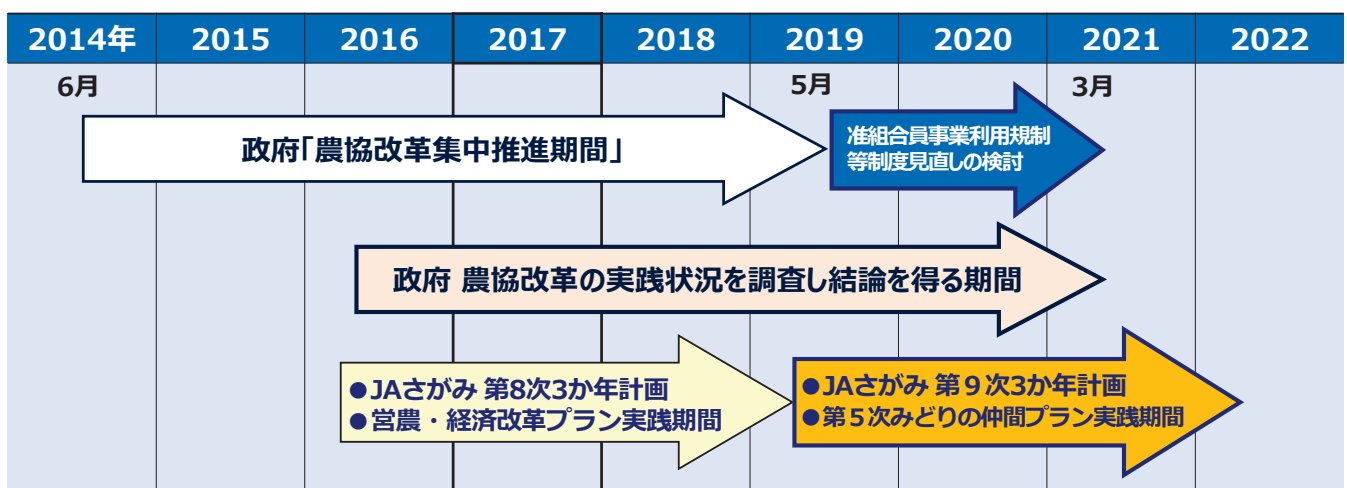
- 都市農業のPR活動
- 直売所を核とした役割発揮
- 准組合員・地域住民との交流

	28年度	29年度	30年度	実績	第5次「みどりの仲間プラン」での展開
都市農業の多面的機能のPR活動	速やかに実施			コミュニティーFM、JAグループ提供テレビ・ラジオ番組で地域農業を紹介したほか、准組合員向け広報紙や地域住民向けコミュニティー紙を発行し、地元農業の重要性と必要性をアピールいたしました。	《農業・消費者交流型(わいわいスタイル)・交流ネットワークにて対応》 ■ さがみ農業に対する理解醸成のため、各メディアの活用を含めた広報活動の継続
新鮮・安全・安心な農産物の供給支援・拡充					
みんなのよい食プロジェクトの継続展開	内容を充実し継続展開			「やっぱり国産農畜産物推進運動」～みんなのよい食プロジェクト～を開催し、地場野菜をPRいたしました。	《農業・消費者交流型(わいわいスタイル)・交流ネットワークにて対応》 ■ さがみ農業に対する理解醸成・PRをさがみ管内における駅周辺にて開催
都市農業振興基本計画策定への積極的参加	行政・連合会・関係機関と連携			全国のJA、行政と連携し基本計画を踏まえた新たな制度の創設等や県・市町へ地方計画の策定等に向けた取組みを働きかけ、「藤沢市都市農業振興計画」にJAさがみ「みどりの仲間プラン」および「営農・経済改革プラン」との連携をはかるものと位置付けました。他行政についても地方計画策定に向けて積極的に関わっていく予定です。	《担い手・交流・生活ネットワークにて対応》 ■ JAさがみ都市農業保全対策協議会を通じた各関係機関との連携強化

	28年度	29年度	30年度	実績	第5次「みどりの仲間プラン」での展開
直売所を核とした役割発揮	地域住民との相互交流実施			JAさがみ直売所において季節イベントを随時実施し、さがみ広報誌、店長ブログ、レディオ湘南等を活用し地場農畜産物の情報発信を行っています。	《農業・消費者交流型(わいわいスタイル)・交流ネットワークにて対応》 ■ 直売所を核とした農業体験の販売による新たな農協ファンの獲得
直売所の情報発信の拠点化					
産学連携イベントの拡充、食農教育・体験型イベントの実施	企画・調整	速やかに実施		日本大学との連携 大学の強みである「食品分析」を活かし、直売全店舗でイベントを開催しました。 鎌倉女子大学との連携 野菜の摂取量増加を促し、野菜の持つ機能性成分の周知・効果的に摂取する方法を紹介しました。 文教大学との連携 学生考案レシピの配布や、試食を交えたイベントを実施しました。	《農業・消費者交流型(わいわいスタイル)・交流ネットワークにて対応》 ■ 大学との連携をはかり、各イベントを開催、食の大切さなど「食農教育」の推進
准組合員・地域住民との交流の実施	企画・調整	速やかに実施		茅ヶ崎地区での「さつまいもプロジェクト」及び金融・共済部・組織経済部合同にて「さつまいもスクール」を開催し、苗の植付、つる返し・除草作業、収穫作業の体験とさつまいもを利用した料理を提供するなど、農業への理解醸成をはかりました。	■ 農業まつりや「1支店1活動」の実施による「農」を通じた准組合員・地域住民との交流活動を行い、さがみ農業のPRと農業の理解醸成
農業まつり、1支店1活動の実施					
支店窓口での地場農産物の紹介、ホームページ、広報誌での情報提供の充実	速やかに実施			事業所窓口のほか、広報誌紙、メディア協力、ホームページなどで、食、農、JAに関する情報を提供し、積極的な情報発信をしています。	■ 農が身近にあることの情報発信を広報誌紙、メディア、ホームページなどを活用し、積極的な情報発信

更なる 自己改革、営農・経済改革への取組みについて

第5次都市農業振興戦略「みどりの仲間プラン」に基づき、改革を実践してまいります。



政府が定めた『農協改革集中推進期間』の期限を31年5月に迎え、2021年3月までは、准組合員事業利用規制等制度見直しに向け、改革の成果を検討して結論を得る期間となります。

今後とも更なる自己改革の取組強化をはかっていくため、組合員の皆さまとの対話活動を実践していくとともに、准組合員、地域住民とのつながりを強め、食と農を基軸として、地域に根ざした協同組合として、組合員・地域住民の皆さま方から「あってよかった、必要だ」と評価されるよう、総合事業の強みを活かした事業連携の強化により、自己改革、営農・経済改革を着実に実践してまいります。



**JAさがみは、
食と農を基軸として地域に根ざした
協同組合を目指します。**



MEMO



つながる 広がる さがみの 笑顔